

月議会では民業圧迫について責任を取ると述べていたが、どうするのか。

答 タウンホテルが潰れた理由は、利用者が減って経営が悪化したことによるものではないようである。宿泊需要調査の際に経営者への聞き取りも行ったが、ホテル建設反対の意思表示はなかった。また、神宮前でホテル建設を計画していた方にも市の方針は伝えていたが、反対はされなかった。どういう事情で中止されたかは不明だが、市として邪魔をしたわけではないし、地域の活性化を進める上で、むしろ民間にもホテル建設をお願いしている。ホテルの需要はあると考えており、ホテル建設は必要である。

問 実際に旅館組合から民業圧迫を指摘して公費ホテル建設反対の要望書が出ている。また、宿泊施設の運営業務を行う者の資格要件に客室70室以上の宿泊施設の運営実績を求めているが、市内のホテルは樫原ロイヤルを別として、30室程度のところが多く、説明会にすら参加できなかったため門前払いされたという印象を持っているようだが。

答 門前払いをした事実はないと思っている。参加資格要件をそのように設定はしたが、他の中小のホテルの方々とも会って話している。旅館組合の要望書に対しても真摯に回答させていた。市としては、複合施設建設に際して様々な観光施策を提案し、既存ホテル等民間とも幅広く連携して共存共栄を図りたい。

総合計画と財政見込み 八木北整備と市営駐車場

問 八木駅南公費ホテルについては、駐車場と渋滞を懸念する予算委員会の附帯決議がついているが、八木駅北側の立体駐車場の撤去はいつ実施するのか。ホテル完成後と前では計画の重さが違ってくる。そもそもホテルの駐車場が足りないのではないかと問われている中で、立駐を撤去した後、駅周りの駐車場はどこに台数を確保するのか。

また、駅前から北に向けて道を通したいという話が出ているが、都市計画道路を横切るはずなのに、都市計画審議会に対してはまったく説明がない。いつ行うのか。

答 昨年度より、基本構想を策定して検討業務に着手している。事業範囲は、ロータリー、噴水広場等々の駅前広場全体を対象としているが、どのような整備を行うかについては、駐車場問題を含めた様々な課題に対して検討を積み重ねて進めていく。立体駐車場の撤去や八木駅北のアクセス道路についての事業期間、工事内容等は具体的には決まっていない。八木駅から北の市街地へのアクセス道路は、東西の都市計画道路の側道部分に接続する予定であり、計画そのものに支障はない。なお、都市計画道路は、一部が土地区画整理事業の一環として整備されたものだが、西側の先は事業着手していないのが現状である。長期未着手路線を含む市内全域の都市計画道路の見直し対象路線の1つとなっており、有識者の意見も取り入れて、必要性も含めて検討業務を進めていきたい。

複合施設の駐車場が足りない場合は、八木駅南の駐車場とヤマト一の駐車場を借りることを考えている。また、八木駅北の詳細は決まっていないが、平成26年2月に示した

財政計画に入っている。八木北整備費として35億円、国費を2分の1、起債を90%の充当率で考えている。ただ、まだどの手法を取るかは決まっていない。総合的なまちづくりの観点から見ると、まず1,100坪について取り組み、その中で庁舎の建て替え及びリファイニング等も考えながら、駐車場も含めた八木駅北整備をしていきたい。

問 都市計画道路事業は、今井町周辺の路線しか動いていない。他は、予算を付けないのなら、廃止するかどうかを早く決めるべきである。

八木北に関しては、立駐と道路だけでなく、高さ制限の緩和も議論したい。南の45メートルとまではいなくても、固定資産税の増収も見込める。問題が山積しているのに都市計画審議会は何カ月もの間開催されていないが、市長や議会が何もかも決めた後で事後報告だけをするような場になっているのか。意思形成を行う場ではなかったのか。

答 概算であるが道路整備のためのものを含んでいる。

問 八木北整備費の中の用地買収は、道路整備のためのものだけなのか。

答 都市計画審議会では、大きな課題については当然状況報告を行っているが、市が素案を作成し、県の関係者と協議した案を審議していただいているのが現状である。都市計画道路については、確かに大事な問題であり、長期に至る未着手路線は、これからの将来にわたる人口減、さらなる高齢化を踏まえて様々な方面から検討しなければならぬ。有識者の意見も聞いて、必要に応じて都市計画審議会に報告する必要があると思う。



八木駅北北駐車場

都市計画道の予定と 高さ制限等の緩和